

学長就任挨拶



学長 赤川 安正(あかがわ やすまさ)

略 歴

昭和24年11月23日生(63歳)
 昭和50年3月 広島大学歯学部 卒業
 平成5年6月 広島大学歯学部教授
 平成14年4月 広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授
 平成17年5月 日本補綴歯科学会理事長
 (平成19年5月迄)
 平成19年6月 日本歯学系学会協議会理事長
 (平成22年6月迄)
 平成24年4月 広島大学大学院医歯薬保健学
 研究院教授 (平成25年3月迄)
 平成25年2月 American Prosthodontic Society
 Golden Medallion Award 受賞
 平成25年3月 IADR Distinguished Scientists
 Award in Prosthodontics and
 Implants 受賞
 平成25年4月 奥羽大学 学長(現在に至る)

本年4月1日より、学長を拝命いたしました。私は広島県の呉で生まれ、中学から広島市に行き、以来1年2ヶ月のスウェーデン留学と4ヶ月のアメリカ留学を除いて、ずっと広島で過ごしてきました。縁に結ばれて郡山にまいりましたが、ここに骨を埋める覚悟で、精一杯努力する所存であります。

少子化による大学全入が現実となるなかで、大学間の競争は熾烈を極めており、私立歯科大学・歯学部・薬学部にあつては国家試験の合格率の向上と学生定員の確保がもっとも重要な問題と認識されています。このような状況にあつて、奥羽大学は重大な岐路に立っていると思われます。それゆえ奥羽大学は、建学の精神である人間性豊かな医療人を育成することを、もっと明確に、もっと魅力的に語るべきであると考えます。そしてなにより大学の教育力に磨きをかけ、心弾む教育を行って歯科医師国家試験、薬剤師国家試験に合格させる、と学生と保護者に約束しなければなりません。一方で、アカデミアでの革新的な研究を推進することで奥羽大学の魅力をより高め、学生や保護者に「この大学に行きたい」、「この大学で学ばせたい」と思わせる価値を創造すべきです。このためには奥羽大学に希望の風を起こすことが必要であり、①全教員・全職員が岐路に立っているとの危機感を共有し、②先進的な教育技法を取り入れて、自らの教育力を高め、③超高齢社会に求められている歯科医師や薬剤師を育成しなければなりません。

奥羽大学は自然豊かな環境と日本有数の美しいキャンパスを持つ大学です。このことに私たち奥羽大学構成員は大きな誇りを持ち、入学して来る学生の「歯科医師になりたい」「薬剤師になりたい」との夢を必ず実現させる、そのような奥羽大学を全教員・全職員と心をひとつにしながら作って行きたい、と強く思っています。自ら、その先頭に立つ覚悟と決意であり、皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

入学式

平成25年度入学式が4月4日(木)午前10時より記念講堂にて挙行された。

歯学部および薬学部新入生並びに編入生が全員呼名され入学を許可された後、赤川安正学長による、「高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな医療人となるよう努力してください」との告辞があった。

入学生を代表し、歯学部中島千絵子君、薬学部大和田悟志君が希望に満ちた宣誓を行った。

最後に教員紹介が行われ、厳肅な雰囲気の中に入学式が終了した。



告 辞

奥羽大学長 赤川 安正

新入生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。

また、新入生のご両親、ご家族の皆様には今日の日を大きな喜びをもってお迎えのことと存じ、心よりお祝いを申し上げます。

本日、ここに、ご来賓、ご両親、ご家族の方々のご臨席を賜り、奥羽大学歯学部および薬学部の新入生を迎え平成25年度の入学式を挙行できますことは、本学教職員全員の最も大きな喜びとするところであります。と同時に、新入生の皆さんは、入学した喜びと自らの希望と夢の実現に向けて、気力に満ちあふれていることと思います。奥羽大学は皆さんを心より歓迎いたします。

本学は「人間性豊かな歯科医師を育成する」ことを建学の精神に掲げ、1972年、東北・北海道地域における唯一の歯科大学として創設され、2005年には、高齢社会に突入した地域の老人保健医療福祉の向上を担う人間性豊かな薬剤師を育成するため、歯学部との連携のもと、福島県唯一の薬学部を創設いたしました。以来、今日まで、歯学部では3,906名の卒業生を、薬学部では418名

の卒業生をそれぞれ世に輩出してまいりました。

現在、我が国は世界に類をみない速度で超高齢化が進んでいます。このような中であつて、国民の最大の関心事は、単なる長生きではなく、健康で自立して長生きをする「健康長寿」であります。このことに大きな貢献ができるのが、歯科医師であり、薬剤師なのです。すなわち、国民のひとりひとりが元気な時はもちろんのことですが、支援や介護が必要な状態になつても、「口から食べる生きる喜び」を与えることこそが歯科医師の最大の仕事であり、一方、薬剤師は、薬の専門的知識をもって、病に苦しむ患者に寄り添い、健康と安心を与えることこそが最大の仕事なのであります。

このように、社会や国民が望んでいる歯科医師・薬剤師になつてもらおうべく、本学は先進的教育環境を整えており、教職員は全員一丸となつて、皆さんを育成いたします。

新入生の皆さんには、二つのことを強く求めます。一つは、自らの夢である「良い歯科医師になる」「良い薬剤師になる」ことを必ず実現するのだとの強い意志を持ち、それに向かつて、誠実に、ひたむきに、自分のできる限りの努力をすることです。二つ目は、卓越した常識と、事を処する思考上の平衡感覚いわゆるバランス感覚を身に付けようと、常に心掛け、努力をしてください。このバランス感覚は、社会人として、人間関係を円滑に導き、所属する組織で指導力を発揮出来る人間になるための必須の条件であります。私たちはそのような努力をする皆さんを6年間、しっかりと支えることをお約束いたします。

一方で、大学での生活は勉強だけではありません。かけがえのない一生の友を作る絶好の機会です。この自然豊かな環境と美しいキャンパスの中で、クラブ活動、サークル活動、先輩や教員との交流などを通して、素晴らしい友を是非とも沢山作ってほしいと強く願っています。

新入生の皆さんの中には、両親のもとを離れて初めて一人暮らしをする人も沢山いると思います。どうか、自分の体調と安全にはしっかりと気を配ってください。医療人になろうとするもの、まず第一に自分の心と体の健康管理、安全管理ができないといけません。

さあ、今日から、待ちに待った6年間の学生生活が始まります。専門の知識や技術をしっかりと学んで身に付けるべく、誠実に、できる限りの努力をして、その結果、時代が求めている仕事ができ、かつ人の心の痛みがわかる、心優しい歯科医師・薬剤師になってくれることを大いに期待いたします。

しっかり頑張ってください。

これをもって、学長の告辞とします。

年度始め顔合わせ

4月1日(月)、郡山ビューホテルアネックスにて年度始め顔合わせが行われた。この催しには大学教職員等、大学関係者300名以上が参加した。

はじめに赤川安正新学長が入場し、大きな拍手で迎えられた。その後、影山英之理事長の挨拶、続いて赤川学長の乾杯の発声が行われた。さらに歯・薬学部の教授紹介、事務部の部課長紹介が行われた。この顔合せにより教職員同士の交流が一層図られた。



新入生オリエンテーション

歯学部

4月4日(木)入学式後の午後1時30分から中央棟6階教3にて、学年主任・クラス担任が紹介された。その後、学生相談に関して車田、鈴木両カウンセラーより説明が行われた。

引き続き、授業概要並びに学生生活について学生部長より詳細な説明がなされ、質疑応答後に無事終了した。

薬学部

4月4日(木)および4月5日(金)の2日間にわたり、新入生オリエンテーションを開催した。入学式直後の4日(木)は保護者同伴で行い、学生証やシラバスの配付後、学年主任やクラス担任の自己紹介があった。翌5日(金)午前には、1年間の日程や学則および学生生活の説明、選択科目の履修等を行い、午後はクラス担任を囲んでホームルーム、一日の締めくくりには薬剤師国家試験ガイダンスが行われた。

歯学部学外研修

4月8日(月)、歯学部1年生の学外研修を実施した。主たる研修内容は日本歯科大学新潟生命歯学部附属「医の博物館」の見学であった。実施後のアンケートでは、歯学および歯学の歴史に対する知的好奇心を刺激され関心が高まったとの感想が多かった。早期体験学習として非常に有意義であった。

新潟からの帰路、会津若松に寄り鶴ヶ城を見学した。NHK大河ドラマ「八重の桜」の波及効果もあり皆楽しそうに過ごしていた。



薬学部フレッシュマンキャンプ

4月6日(土)に栃木県那須高原のホテルサンバレー那須にて、新入生を対象としたフレッシュマンキャンプを開催した。

午前中はカウンセラー2名による構成的グループエンカウンターが行われ、新入生同士の信頼関係や「和」を広げた。ランチバイキングを挟んで、午後のグループワークは在学生のアカペラサークルの指導のもとで、アカペラによる合唱が行われた。最後には新入生全員の気持ちが一つになり、素晴らしいGReeeeNの「キセキ」が完成した。



歯学部父兄授業参観

5月11日(土)の父兄会・保護者懇談会に先立ち、父兄授業参観が10日(金)に第5学年を除く全学年で実施され、多くの父兄が参加された。

歯学部保護者懇談会

5月11日(土)午後より、130組を超える保護者の方に来学いただき、保護者個別懇談会を開催した。

大学生活、成績、共用試験、国家試験等に関する様々な質問に対し、クラス担任から現況説明やアドバイスが行われた。

保護者懇談会には昨年を上まわる、在学生の40%にあたる父兄が参加された。



薬学部新入生見学学習 サルバドール・ダリの世界に触れて

5月23日(木)午後、福島県裏磐梯にある諸橋近代美術館へ見学学習に訪れた。目的は、本学の建学の精神でもある「豊かな人間性」を高めるとともに、6年制薬剤師教育に求められる「問題解決能力」を養う一環として、「創造性の起源」に触れ、「発想の転換」を身に付けることである。アインシュタインは、「想像力は知識よりも重要だ」と語っている。今回、参加した学生たちはダリの作品から様々な刺激を受け、個々に貴重な体験をすることができた。



学長杯球技大会

5月25日(土)第19回奥羽大学学長杯球技大会が開催された。

今年度はバスケットボールをトーナメント戦で、バレーボールを総当たり戦で、それぞれ5チームずつの順位を決める形式となった。

バレーボールにおいては、最後まで入賞が決まらない緊迫した雰囲気の中試合が展開され、またバスケットボールでは各チームで接戦が繰り広げられ、白熱した試合が見られた。

来年度は今年の反省を生かし、参加者が楽しめるより良い球技大会にしていきたい。



歯学部父兄幹事会・総会

5月11日(土)に第2講義棟にて平成25年度第1回幹事会ならびに第2回定時総会が開催された。

出席者154名のもと、月田会長を議長として下記の議案を審議し承認された。

【報告事項】

- (1) 平成24年度事業報告

【審議事項】

- (1) 平成25年度の役員選出について
- (2) 収支決算(案)について
- (3) 共済基金規定の改定について

薬学部父兄会・保護者懇談会

5月24日(金)に平成25年度第1回幹事会ならびに第2回定時総会が開催された。

総会への参加者は80名で、小林会長を議長として平成25年度役員選出と、平成24年度事業報告ならびに収支決算案がそれぞれ審議された後、承認された。

当日は講演会および授業参観も同時に開催された。薬学部学生部長である押尾教授による「充実した大学生活を送るために一全ては薬剤師資格に通じる」と題した講演が行われ、多くの父兄が熱心に聴講していた。

大学院歯学研究科入学式

平成25年度大学院歯学研究科の入学式が、4月4日(木)午後1時から附属病院棟5階第3会議室で挙行された。新入生6名がそれぞれ呼名され、赤川安正学長より入学を許可された。その後、赤川学長による、正しい倫理観を持って国際的に評価される学位研究に取り組んでほしい旨の告辞があった。



大学院歯学研究科オリエンテーション

平成25年度大学院歯学研究科オリエンテーションが、4月4日(木)午後2時から講義棟研修室1で新入生および在学生在を対象に開催された。はじめに清野和夫研究科長より、大学院における教育研究システム全般について説明があった。

その後、大学院生からの質問に答える形で、それぞれの学年に応じた科目履修方法や学位研究の進め方などについて具体的な事例を含めた案内が行われた。

大学院生のための情報検索説明会

図書館では5月8日(木)から10日(金)、安藤勝図書館長を講師として「大学院生のための情報検索説明会」を開催した。3日間で10名の参加者があった。

説明内容は論文作成上おもに利用される医中誌Web、国立国会図書館サーチ、博士論文書誌データベース、CiNii、PubMed、SciFinderなどを中心として各種データベースを紹介し、必要とする学術論文の探し方を学んだ。



板橋仁講師に神奈川歯科大学より感謝状

成長発育歯学講座 板橋仁講師が、神奈川歯科大学大学院「横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センター」主催の第1回災害医療歯科学研究報告会(平成25年3月31日)において、東大法医学教室 吉田謙一教授 ほか10名と共に評価者を務め、神奈川歯科大学佐藤貞雄学長より感謝状を贈呈された。

先の東日本大震災で本学検死チームの実務責任者として検死活動に従事した板橋講師は、同大学大学院FD講演会に招かれ「東日本大震災における奥羽大学の取組み 一身元不明遺体の検死派遣業務を中心に」と題する講演を行った経緯から、今回の評価者に選出された。



薬学部教育研修講演会

平成25年5月23日(木)午後5時より、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の小林信之教授を講師にお招きし、「感染症とどう闘うか ―新興感染症―」という演題で教育研修講演会を開催した。

出島での貿易は文化の入口として国の発展をもたらしたが、コレラや天然痘などの感染症の入口でもあったという皮肉な歴史があることに触れ、長崎は最先端の医学が入ってきた地であったと紹介された。人類はインフルエンザ、エイズ、成人白血病、子宮頸がんなどの新興感染症の脅威に常に晒されている。しかし、新興感染症の蔓延は、予防をすることにより、死亡率を低く抑えることができるとし、現在、抗ウイルス薬の開発に携わり、その一端を紹介していただいた。



アロマ体験教室

5月25日(土)、本学薬学実習棟にてアロマ体験教室を開催した。

今回は「ココロとカラダで楽しむアロマプチ体験―好きな香りで、あなただけのアロマグッズを作りませんか―」と題して、アイランド薬局薬剤師 山本直美先生のご指導の下、各自、入浴剤の製作に取り組んだ。



オープンキャンパス

5月18日(土)に本年度第1回目のオープンキャンパスを開催した。まず大野敬歯学部長、衛藤雅昭薬学部長が両学部の概要を紹介し、つづいて「病気からヒトを守る仕組みの最先端」と題して清浦有祐歯学部教授が模擬授業を行った。その後、在学生在が大学生活の一端を紹介し、それを受けて実際に研究室など校内を案内して、さらに教授指導の下、ミニ実習を体験していただいた。

昼食後、希望された方と個別に面談を行い、閉会となった。



夏のオープンキャンパス

7月20日(土) 10:00~15:00
「模擬授業体験&特別講演」

歯学部

コンピュータで虫歯を削ってみよう
＜模擬授業+体験実習＞

薬学部

漢方薬学+漢方薬体験

8月4日(日) 10:00~15:00
「チャレンジ体験実習」

歯学部

歯科医師を体験してみよう

薬学部

白衣を着て憧れの薬剤師を体験しよう!

附属病院

歯科医師臨床研修開始式

平成 25 年度歯科医師臨床研修開始式が 4 月 1 日(月)午後 3 時、講義棟第 2 研修室において挙行された。式には高橋病院長ほか関係教職員が出席した。

41 名の臨床研修歯科医師が呼名され研修許可の後、病院長より社会人としての常識を持ちながら医療人としての倫理観を養い、生涯研修の第一歩における心構えについての訓示があり、厳粛に終了した。



登院式

4 月 1 日(月)、臨床講義室において臨床実習をスタートする第 5 学年の登院式が行われた。今年度は共用試験を合格した 60 名が新しい白衣で整列し、高橋病院長より患者を診ることへの厳しさと臨床実習への励ましの言葉をいただいた。この日からの 1 年間、患者さんと接することでコミュニケーション能力や接遇を学び、臨床の難しさや医学的知識、技術の大切さを理解することになる。



街なかライブ

街なかライブは、一般市民の方を対象に広く歯学部・薬学部における研究活動の一端を紹介する事を目的としています。この催しは県内を中心に精力的に行っており、本年度は下記の日程で開催します。知っておくと便利な薬の話や意外と知られていない歯に関する事など、薬康にまつわる講演を行います。皆様の来場をお待ちしております。

6 月 15 日(土) 13:00～	会津アピオ アピオスペース(2 階研修室)		
	薬学部	感染症から身を守る－新型インフルエンザの話題を中心に－ 脳が心に伝えること	堀江均教授 関健二郎講師
	白河市立図書館 地域交流会議室		
	薬学部	健康と環境－食と食品添加物について－ 医薬品の適正使用について－薬剤師と看護師の立場から－	宇佐見則行教授 真島崇講師

6 月 29 日(土) 13:00～	いわき産業創造館		
	歯学部	歯並び、気になりませんか	松山仁昭講師
	薬学部	クスリと有機化学について	山岸丈洋准教授
	福島市アクティブシニアセンター「アオウゼ」		
	歯学部	歯並びを治す－歯を動かす矯正の仕事－	板橋仁講師
	薬学部	かゆみのはなし	野島浩史教授

「夢ナビライブ」参加予定

「夢ナビライブ」は、全国各地の大学教員が一堂に会し、高校生達が興味のある分野の講義を聞く事が出来る催しです。
本学からは下記の 2 名の教員が参加教員します。

7 月 13 日(土) 東京ビッグサイト		
歯学部	「歯周病と糖尿病との意外な関係」	廣瀬公治教授
薬学部	「人間のからだにやさしい薬を！～電気エネルギーの力を借りて～」	柏木良友教授

図書館企画展示

4 月 4 日(木)から 27 日(土)まで、「安積疏水の旅《本と写真展》」を図書館 1 階閲覧室において開催した。本学所蔵の安積疏水に関連した本と猪苗代湖の疏水取入れ口から第 7 分水路の終着までの写真 40 枚を展示した。

また 5 月 15 日(木)から 31 日(金)までは「絵本のメッセージ－大人にとっての絵本とは－」をテーマとしてさまざまなタイプの絵本 26 冊を紹介した。



同窓会だより

群馬県支部長
歯学部 2 期

天田 雅人

お世話になります。斎藤晃一先生のあと群馬県支部長をお任せつかりました群馬県みどり市開業 2 期生の天田雅人といいます。よろしくお願いいたします。

あらためて 5 年 10 年と数えなおしてみますと、卒業以来もう 30 年を超える年月がたっていました。開業いらい夢中で過ごした年月だったように思います。気がつくと長女は家庭をもち、長

男は現在いっしょに診療をしています。大学卒業後お世話になった先生に、「診療人生 30 年。最初の 10 年は自分に投資しなさい。と言われ、まずは勉強しろということだと思いました。次の 10 年は回収。マイナスじゃ困るからね。と言われ、それじゃ次の 10 年は・・・とお尋ねしたら、次は奉仕だよと言われました。」なかなか難しい。そのような境地には達していません。

群馬県支部もすっかり若い先生が増え、なかなか名前と顔が一致しないことがあります。そんな私が支部長をつとまるか不安です。斎藤先生はじめ先輩会長や支部のみなさんにささえていただき、なんとか無事に次につないでゆきたいと考えています。群馬県は一応東京から 100 キロ圏内ということになっていますが関東平野の北のはずれ、やはり田舎であることに間違いはありません。市内の空洞化が進み郊外へのドーナツ化現象、さらに高齢化が進み人口は増えていないようです。最近スポーツサイクルを買いました。時間を見つけて河川敷を走っています。田舎であるということは自然が豊かだということです。高齢者が増えたということはじっくりお話ししながら診療ができることだと良い面をみるように考えて 2 年間支部長もがんばりたいと思います。よろしくお願いします。

同窓生のひろば



関西支部専務理事
歯学部 17 期

徳永 浩

同窓の皆様方におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。また、東日本大震災に際し被災されました多くの方々には心より深くお見舞い申し

上げますとともにより速い復興を祈念いたします。

私といたしましては卒業後3年間口腔外科で勉強させていただき、帰阪後3年間勤務医を経て平成13年に開業させていただきました。まだまだ日々研鑽していかなければと思っています。

同窓会関西支部といたしましては2府4県にお住まいの先生方で構成されており、毎年4月に総会および学術講演会を開催しております。学術講演におきましては大学より講師をお招きしたり本学をご卒業された先生にご講演をお願いしております。また講演会後は講師の先生を含め懇親会を開催し卒業年度問わず気軽に交流を深め近況報告や情報交換の場として和気あいあいとお話いただいております。近年は若い先生方の出席率が低下しているのが気になりますが役員一同盛り上げていこうと考えているところです。また支部間での交流も出来ればとも考えております。同窓生がこれをご覧になりすでに関西に在住、またこれから帰阪もしくは関西で働いてみたいとお考えの方は各府県の代表もしくは関西支部支部長または専務の私までご一報いただければ幸いです。また最近になり本部同窓会学術委員も務めさせていただきます。こちらのほうでは卒後研修セミナーとして先日、第8回が開催され多くの同窓生やその関係者にお集まりいただきとても有意義な時間を過ごすことができました。次回第9回は本年10月6日(日)に開催されますので皆様揃ってのご参加をお待ちしております。



文学部 日文科11期生
高岡 尚子 (旧姓高野)
同窓生の皆様、こんにちは。新緑のまぶしい季節になりましたが、その後いかがお過ごしでしょうか。

私が文学部日文科を卒業して、11年経ちました。思い起こせば、学生時代は善宝池を眺めながら自転車を通いました。キャンパス内の色とりどりの植物で四季を感じたり、晴れた日には気の合う友人と噴水の前を歩き、とりとめのない話をしました。

私は高校生の時、学校図書館司書教諭の先生と出会い、その職業に興味を持ちました。図書館と生徒を繋ぎ、生徒が知識を吸収する手助けをすることに感動しました。それと、元々本を読むことが好きだったので、当初は本に関わる

仕事に就きたいという一心でした。

しかし、奥羽大学で日本文学や語学を学びつつ、教職課程を受講したことで、「子どもに国語を教えたい」「子ども達に国語という教科を好きになってもらいたい」と思うようになりました。それに加えて、司書課程でお世話になった安藤勝先生に絵本の素晴らしさや、心を豊かにすることで子ども達の健全な育成に役立つということを教わりました。こうして私の目標は国語教員になりたいと変化していきました。

しかし、目標は決まり教員免許を取得したものの、実力が伴わず正規の教員にはなれませんでした。その時の悔しさは未だに胸に残っています。

それでも私は学校や子ども達と関わる仕事をしなくて、現在住んでいる栃木県で臨時教員や家庭教師、学童保育の指導員や歴史民俗資料館の臨時教員などを勤めました。どのような形であれ、最終的には子どもに何か教えたり、感動を分かち合いたかったのです。それがわかっただけでも、十分収穫が得られました。

そんな矢先、6年前、持病が発症してしまいました。効果はあるけれど、強い副作用の治療薬と食事療法でなんとか日常生活を過ごせるようになりました。そして5年前、結婚して家庭にいました。体調が思わしくないので、現在就業しておりませんが、児童館や図書館へボランティア活動をしています。どうやら私は子どもと関わるのが本当に好きなのです。趣味で童話を書いては、恩師や友人に読んでもらっています。これからも続けていきたいです。

奥羽大学で私が学んだことは知識だけではなく、人間性を高めることも含まれています。新しいことに挑戦して、人生という航海を楽しんでいこうと思います。

最後に、東日本大震災から二年経ちましたが、復興のため奥羽大学出身者が力を尽くしていることに誇りを感じています。皆様、お体に気をつけて励んで下さい。

セクシュアルハラスメント防止委員会からの報告

先日、奥羽大学セクシュアルハラスメント防止委員会第1回の会議が開催され、平成25年度の委員及び体制が承認されました。

ここで、セクシュアルハラスメント(略称セクハラ)について、簡単に述べたいと思います。わが国では、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法」、通称、男女機会均等法により、性別を理由とした男女間の差別的取扱いを禁止しています。

セクシュアルハラスメントは単に雇用上の問題だけではなく、力関係などを用いて、相手が望まない性的な言動を強要することですが、これにはわいせつな写真やポスターを部屋に貼ったり、わいせつな会話を聞かせるなどの「環境型」といわれるものと、上司にわいせつな行為を強要されるといった「対価型」と言われるものの2種類があります。特に環境型には、単純に相手が嫌がるような性的な言動や、性差別にあたる言動まで含まれます。すなわち、異性が不快に感じるとセクシュアルハラスメントになるということです。

大学においては、役員、教職員あるいは学生による他の役員、教職員、学生に対して不快感を抱かせる性的な言動がこれにあたります。また、いわゆる体育会系の男性同士の性的ないじめもセクハラと認定されるようになっていきます。

このようなセクシュアルハラスメントに出会ったときの為に、奥羽大学ではセクシュアルハラスメント防止委員会が対応できるようになっています。もし、異性からの言動に不快感を抱いたり、不当な扱いを受けた場合には、まず、セクシュアルハラスメント防止委員会の委員に相談してください。委員は相談者から依頼をうけて、対応が必要となれば、委員会に諮ります。そして、相談者の意思確認ののち、それを尊重して、問題の解決に当たります。

また、皆さんも、なにげない言動が異性に対してセクシュアルハラスメントとなりうることを認識してほしいと思います。セクシュアルハラスメント防止委員会は、セクハラの実例等について研修会や学報などを通じて、セクハラの防止に努めたいと思います。

新任教授紹介



歯学部
口腔衛生学

瀬川 洋

このたび、平成25年4月1日(月)付をもちまして、奥羽大学歯学部口腔衛生学講座教授を拝命いたしました。東北歯科大学を卒業後、本学大学院歯学研究科で口腔衛生学を専攻して、学位取得後、平成2年に助手として任用され、講師、助教授、准教授として23年間勤めてきました。また、嘗てボーイスカウトであったことから日本連盟初代総長の後藤新平の自治三訣「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」を信念としてきましたが、とくに本学においては様々な方々のお世話になってきました。これからはそのご厚情に少しでも報いることができますよう、日々の講義、実習、学生指導そして研究を通じて、人間性豊かな歯科医師の育成に、より一層努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



歯学部
口腔機能分子生物学講座 生物学
馬場 麻人

4月1日(月)付で教授職を拝命し、歯学部第一学年の生物学の講義ならびに実習を担当しております。

私は平成元年に東京医科歯科大学歯学部を卒業後、口腔解剖学教室で学位を取得し以後ほぼ20年間、同校の教官として肉眼解剖学・組織学の講義・実習指導と硬組織形成に関わる研究を行い過ごしてきました。このような形態学の領域でも、近年は生化学的あるいは分子生物学的理解も併せて要求されることも多く、さらには歯科医学領域においても広範な細胞生物学の知識を基礎とした現象の解釈が必須のものとなってきております。歯科医学の入り口に立つ学生の皆さんが興味をもって、そのような基礎学力を身につけることができるよう努力する所存です。よろしくお願い致します。